

教育長	教育部長	課長	指導主事	課長補佐	主査	係	保存区分
							永・10 5・1

令和7年度第1回大口町総合教育会議

令和8年2月19日

午前 10時0分 開議

大口町役場2階 会議室

1 開 会

2 町長挨拶

3 教育長挨拶

4 協議事項

大口町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保実施計画について

5 その他

6 閉 会

構成員

町 長	鈴木 雅 博	教 育 長	社 本 寛
教育長職務代理者	鈴 村 由布子	教 育 委 員	水 谷 恵 子
教 育 委 員	舟 橋 由 治	教 育 委 員	丹 羽 力 也

町長部局

企画政策課長 水野友春

教育委員会

生涯教育部長 松井宏之

学校教育課長 岩田雄治

派遣指導主事 大野佑樹

(午前 9時57分)

1. 開会

○水野企画政策課長

皆さん、おはようございます。定刻よりも若干早いですが、皆様お揃いですので、始めさせていただきます。

本日は大変お忙しい中、大口町総合教育会議にご出席賜りまして誠にありがとうございます。

それでは、令和7年度大口町総合教育会議を開催いたします。

企画政策課長の水野と申します。どうぞよろしく申し上げます。

着座にて失礼いたします。

では、お手元にお配りしました資料の確認をお願いします。

次第と出席者の名簿、あと大口町立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画とA4横の資料を配布させていただいております。

なお、出席者名簿にあります企画政策課課長補佐江口崇ですがインフルエンザのため、欠席させていただいておりますので、ご報告申し上げます。

資料の不足等は大丈夫でしょうか。

では、始めさせていただきます。

本日の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定によりまして、原則公開となっております。

また、会議の開催に当たりましては、事前に町ホームページにおきまして、会議の開催を公表し、傍聴の希望者を募りましたが、希望される方はお見えになりませんでした。

2. 町長挨拶

○水野企画政策課長

それでは、開会にあたり、鈴木町長からご挨拶を申し上げます。

○鈴木町長

こんにちは。

昔からよく言われる三寒四温、本当に寒くなったり暖かくなったりで、今、中学校、小学校ではインフルエンザがものすごく蔓延しているという状況でもあります。

そういう意味で、今日のこの総合教育会議、健康と勉強といろいろなものを加味したことを皆さん方にこれからお話をさせて頂くというわけであります。

まず、平成27年にできたこの会議は、大口町の中で教育のことに対して話をする、一番核となる会議だというふうに私は認識をしております。今日おいで頂いております、教育委員の皆さん方にもそのご認識は持って頂いていると私は思っておる次第であります。

様々な環境や先生方の立場等いろいろなことを考えると、今は、我々が育ってきた教育行政とは全く違った形ではないかということを思っております。

そして、小泉内閣の時に、ゆとり教育という教育方針が出て、勉強をやらなくてもいいんじゃないのかというような感覚の時代がありましたけれども、その子たちが今、もう35をすぎるような年齢になってきました。教育委員お二人の男性の方は、会社で社長もなさってると思いますが、99.7%が中小企業と言われる日本という国の中において、その子たちが働いてくれない、自分のことを考えて、自分のことだけを主張するっていう働き方で、本当に国というのが回されていいのか悪いのかっていうところが一番大きな問題になっているのではないのかな、と。

最近の、もっと若い子たちは、報告とかいろいろなことに対して目を向けてくれるところもあるようですが、全体的に何となく誰かが何かをしてくれるから良いだろう、自分の要求を求めるだけで、後は受けとる方はあっても、返す方がない。そういう意味で、本当に教育っていうのが、成り立っていくのかな、っていうところが、まず一点ございます。

そしてもう一つは、学校の先生たちのあり方。

熱血の先生もいますし、たった一言「働き方改革」という言葉だけで、全て同じ形にしてしまうことが、本当に正しいのかというのが、私が思っている一番大きなポイントだと、ご理解をいただければと思っております。

子どもたちを育て、教育をしていくという立場の中で、一人一人違った子どもたちをどのようにして個性を持った子どもたちに育てていくのかということは、先生に預けられたものであり、国が決める働き方改革だからそれはだめだということは、私はどうも、いまいち腑に落ちない。

また、同じように、ゆとり教育のような形で、本当に同じような子たちができてしまうというのは、日本という国を考えた時に、本当にそれで正しいのかというと、認識をもう一度見直さなければならぬんじゃないのか、と思っておる次第であります。

ぜひ、そういう意味から、教育委員の皆さんにもお願いをしたいのは、大口町は、人口2万4000の町で、大体、一学年250人ぐらいの子どもたちが育っていきます。

その250人の子どもたちが、同じ考え方で同じ人間、ということはありませんというのが私の考え方であります。いろいろな個性を持った子どもたちがたくさんいるというこ

とですので、その個性をいかに伸ばしていくかということを考えないといけません。

今後の大口町を託せる子どもたちが育っていくような教育行政をこれからも進めてまいりたいと思っております。

今日、短い時間ではありますが、つつがないご意見いただきますよう、心からお願いを申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。

よろしくお願いを申し上げます。

3. 教育長挨拶

○水野企画政策課長

続きまして、教育委員会を代表して、社本教育長から挨拶を頂戴したいと存じます。

よろしくお願ひします。

○社本教育長

皆さん、こんにちは。

12月に教育長という職を拝命いたしまして、2ヶ月半ほど経ちました。

本日、総合教育会議ということですが、私が職員として働いていた頃、実は教育委員会のあり方について、全国的な議論があり、非常に閉鎖的だということ、教育委員会そのものがいないのではないかという議論もかなりありました。

その当時、私が職員として思っていたことは、教育委員会はやはり必要だろうなということです。政治的なものとか、いろいろなものに左右されずに、子どもたちの育成を支えていくという部分では必要だろうという一方で、独立しているため、他の意見がなかなか取り入れられないというところがあって、それでも、最終的にやはり教育委員会はいらなければならないと考えています。しかし、独立しているからこそ、いろいろな議論をし、考え方が違う人たちが話をしていこうということで、この総合教育会議というのができてきました。

これは結局、選挙によって住民代表として選ばれた首長が、教育行政に意見する場がなかなかないというところで、できたものです。

本日、町長一人なので、行政側一人で本当に会議成り立つのかなと思ったりもするんですけど、今のところこのように進めてくんだらうなと思っています。

本日協議事項に上がっております、この実施計画。

これも先日の教育委員会定例会で私申し上げましたが、これ、学校が定めたのではなく

て、教育委員会が定めたということです。素案としては、文科省とかが作っていますが、出してくるのは教育委員会です。

要は、私たちが、これを具体化していかなければならない、という計画なんです。部活動も今、調整を始めていますが、自治体の責任において、地域の力を借りて、やりなさいというものも今定められようとしています。

先ほど町長の挨拶にもありましたが、私たちが当事者となって考えていかないと、計画だけできて、この計画通りにやっているのかって言われると、え、っていう話になってくる時代です。いろいろな考え方があって、それをまとめていくのは非常に難しいのかもしれないですが、やはり耳を貸しながら、具体的にどう進めていくかというところに、力点を置いて、教育委員会としては、町長部局とは独立しているんですけど、やっぱりいろいろな意見を聞きながら、いろいろな説明しながら、お話聞いて、やっていかなければならない、と思っていますので、ぜひいろいろな考え方を、多様性、寛容性、耳を傾けながら、子どもたちのために進めていければなと思っていますので、よろしく願いいたします。

○水野企画政策課長

ありがとうございます。

4. 協議事項

○水野企画政策課長

それでは、協議事項に入りたいと思います。

議長は、大口町総合教育会議運営規定第3条、会議の議事進行は、町長が行う、となっておりますので、町長にお願いしたいと思います。

よろしく願いいたします。

○鈴木町長

はい、それでは、議事進行させていただきます。

今日の案件は1件でございます、大口町立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画についてでございます。

事務局の方から説明よろしく願いいたします。

○大野指導主事

指導主事の犬野と申します。

よろしく申し上げます。

着座にて失礼します。

大口町立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画についてご報告いたします。

まず、策定の経緯を説明いたします。教員に優れた人材を確保する必要性に鑑み、令和7年6月に公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法、いわゆる給特法が改正されて、次の3点について示されました。

1点目が、学校における働き方改革の、一層の推進について、2点目が、組織的な学校運営及び指導の促進について、3点目が、教員の処遇改善についてです。

1点目の働き方改革の、一層の推進に関わって、服務監督、教育委員会に、業務量管理・健康確保措置実施計画の策定、公表、計画の実施状況の公表が義務付けられました。

それに伴って、この度、大口町立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画を策定しました。今日、資料として、お出ししておりますが、3ページをご覧ください。計画の趣旨になります。

主に上2行と、下5行目に、書かれていることを、説明をさせていただきます。

学校における働き方改革は、教職員が健康で、充実して働き続けることができるようにしていくこと、また、それによって、教育の質の向上を実現することが目的です。この計画の策定により、教職員が、本来的な業務に専念できる環境づくりを推進します。

続いて4ページをご覧ください。本町の現状になります。

令和6年度、1ヶ月時間在校等時間が45時間を超えた人の割合が約27%です。上から3つ目の、丸のところに、記載をしております。

5ページをご覧ください。5ページが今後の目標になります。

1ヶ月時間外在校等時間が45時間以下の割合を100%にする、つまり先ほどの27%を0にするということになります。

それから1年間における1ヶ月時間外在校時間の平均時間も30時間程度にすることとされています。

計画の期間は令和11年度までで、年度ごとに実施計画を確認し、必要によって更新をしていきます。

6ページからをご覧ください。6ページから重点事項になります。本日記りました別紙資料とともに御覧ください。

別紙資料は文部科学省が令和元年度中央教育審議会の答申で示された「学校と教師の業務3分類」をアップデートされたものです。これを参考に、それぞれの地域における業務の見直しについて優先的に対応するものから反映させることになっています。

大口町教育委員会としては、学校以外が担うべき業務からは、1の「登下校時の通学路における日常的な見守り活動」について、5の「保護者等からの過剰な苦情や不当な要求等、学校では対応が困難なものへの対応」についての2点。

それから教師以外が積極的に参画すべき業務からは、6の「調査統計等への回答」について、7の「学校の広報資料ウェブサイトの作成管理」について、13の「部活動について」の3点です。

教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務からは、15の「授業準備」について、16の「学習評価や成績処理」について、19の「支援が必要な児童生徒・家庭への対応」について、の3点を重点事項としてピックアップしています。

資料の6ページから7ページにかけて、そのピックアップした内容を少し詳しく説明をしています。

8ページからは学校における見直し事項等についてもまとめています。これらの取り組みを進めることで、令和11年度までに目標を達成できるように進めていきます。

担当として時間外在校時間の分析を毎月しておりますが、中学校はやはり部活動による超過が大きくなっています。土日の部活動時間がなくなるだけでも、大幅な変化になると捉えています。

ただ、私自身も、顧問もとことんやってきており、部活動のやりがいと楽しさは十分に知っています。しかし、土日や勤務時間を超えた活動については、課題でもあります。

現在、地域展開について各地で検討が進められており、大口町でも検討を進めているところです。

私自身も、健康の維持や家庭生活との両立、人生の豊かさ等を失う教員を、様々目にしてきました。

小学校につきましては、現在、令和6年度の平均時間外在校時間が29.6時間です。すでに目標を達成しています。小学校では在校時間の削減に向けた工夫をかなり進めていただいております。一方、同時に、家庭へ持ち帰りの仕事がどれぐらいあるのか、数値の削減を目標とするあまり、本来教員がやらなければならない業務まで削減していないか、が心配されるところです。

私個人の感覚としては、これ以上の大きな削減がモチベーションやコミュニケーションまで削減していってしまうのではないかと、ということに危惧しているところです。

以上のことを踏まえまして、先ほど重点目標につきましては、中にはすでにできていること、それから少し頑張ればできることも多く含まれており、大きな変更を生み出すものは、現段階ではあまり入っていない、というのが現状ではありますが、できることから、業務を効率的に進めたり、あるいは、チームによって、時間を削減できたりというような方法を取り入れて、教員が質の高い教育活動に専念できるようにしていければということを考えています。

今後の予定としては、来年度以降、計画の実施状況について公表するとともに、この総合教育会議で報告をさせていただきます。

以上になります。

よろしく申し上げます。

○鈴木町長

はい、ありがとうございました。

説明が悪いわけじゃないのだけれども、今の説明を聞いてもよくわからないというのが正直なところで、例えば今の「この時間にしなさい」、「35時間にしなさい、あと5時間減らしなさい」と言っても、学校の先生がみんな同じレベルで同じ力持っている人たちではないのだろうなと思ひまして。

中には、コーヒーでも飲みながらゆっくりやろうかという人もいるだろうし、もうこの調子で一気にやるぞという人もいるだろうしと思うと、金太郎飴のようにまったく同じとはいかないよなということの思うんですが、どうでしょうという話を聞けばいいですか。

○大野指導主事

はい。

○水野企画政策課長

教育委員会としては、こういう形で実施計画を策定していただいておりますので、それに忌憚なき意見を頂く場です。

町長に関しましては、議事進行しながらになります。

○鈴木町長

何について、意見交換したらいいのかな、とってしまうのですが。

さっき言ったように「これはおかしいんじゃないか」という提案をするのか、何について議論をしたらいいのかというのをちょっと教えてくれるといいんですが。

大野指導主事どうですか。

○鈴木教育長職務代理

そうですね。なかなか難しいっていうか…

○大野指導主事

今おっしゃられたように、学校の教員の時間数についても、減らせということは言われているものの、いろいろな教員がいるというのも確かであり、それでも健康を害するとか、それから業務を効率的に短くするっていうことを目指すということは、必要なものではあると思います。

そういったことを目指すために、こうした目標を作らせていただきました。長い視点でのこの計画を作っておりますので、今みたいなことについて、ご意見をいろいろいただいて、年ごとに改めて行ったりとか、あるいはその教員の時間数を見ていきながら、もっと必要なものはないんだろうか、あるいは個々の教員によって当然違うのであれば、そういうものに対応した計画に変えていくためにどうすればいいのかということ、こちらとしては検討をしていかなければならないと思っております。

今回1年目の策定で、たたき台ではありませんが、一旦こういう形で進めていこうということで作ったものなんですけれども、いろいろな視点からのご意見をいただいて、本当にこれで大丈夫なのかっていうこととかをお話しできればと思っています。

○鈴木町長

根本的に一つの形っていうのにこだわりすぎてしまい、個々の人間性やそういうものは全くこれには反映されないですね。

そうすると、正直な話、「こんなの受け入れられない」って思う時にないですか。

○大野指導主事

そうですね。

○鈴木町長

そうですね。

業務時間削減しろと言われても、時間外っていうか自分で好きでやっているのに、それをここで切れという方が逆にストレスになってしまうっていうこともあり得るんじゃないの、やりたいのにやるなって言われたら。逆にストレスになって、やる気がどんどん薄れていってしまえば、そこで教育を受ける子どもたちは、やる気のない先生にいくら教えてもらったってしょうがないという話に、そうになってしまうんじゃないのかな。

○大野指導主事

そうですね。

例えば、授業についてとかそういう部分を削減しろと言われてたら、自分の中で抵抗は当然ありますし、おそらく他の教員もそうだと思います。

数字だけで考えていって、早く帰れというのは、これまで言われていたのは現状ではあるんですけども。

○鈴木町長

「仕事が残っている、やらなくちゃ」というストレスは少なからずあると思うけど、教育委員の人たちがそこを見てるわけではないので、教員の間で起こるいろいろなことをここに出てくる指定された時間だけで、全てを落とし込めっていうのは、正直言ってできないと思うんだよな。

だからどこで折り合いをつけていくのかということをお話していくのであれば、話はできるけど。

目標時間もこれで決めますというのをこの場で決めるのは、正直言って無理だと思う。目標値として上げていくが、その目標値に対して強制はしていかない。ただ、自分の気持ち、モチベーションの中でこう対応していくというのであればいいとは思いますが。

水谷さん、ちょっと聞きたいんだけど、お父さんってどうだったの。学校の先生として。

○水谷委員

以前と全く今の働き方違うので、以前は部活とかも……

個人的なことを質問されてますか。

○鈴木町長

個人的な話でいいと思うよ。

個人的に言っている話なのか、公に言う話なのか。分けてくれないと、今の水谷さんじゃないけど、個人的な話なのか校長先生としての話なのか。

だから、そのことをどうするかっていうことを、ざっくり話せばいいのか。ざっくり話して「じゃあ、これでいきますよ」っていうのでいいのか、ボイスレコーダーを置かずに、本当に自分たちだけで話をするのかっていうところを、今後やっぱり決めてくれないと。

全てをこの会議の中でやれと言ったら、自分の意にそぐわないことを発言しなきゃいかんって言うことに、なるんじゃないかな。

○鈴木教育長職務代理

先ほどの説明にあったように、先生によってやっぱり時間、まちまちですよね。
で、うちの娘は、持ち帰って来るタイプでした。

○鈴木町長

先生なの？

○鈴木教育長職務代理

はい。

○鈴木町長

持ち帰ってきちゃう？

でも、持ち帰ってくるのも先ほども「いかんだろ」って言っとった。

○鈴木教育長職務代理

個人情報に変わるものじゃなく、ちょっと授業の準備とか、「これ作らなきゃいけない」とか。学校にいたら「時間、もう帰れ」と言われるからって。

でも、先生達って、残業代つかないって、ご存じですよね？

○鈴木町長

え、そうなの？

○鈴木教育長職務代理

そうなんです。

○鈴木教育長職務代理

それもあり、やっぱり時間内の働き方をしていこうと。

時間を決めろって言っても、その時間に収まるために、地域の協力とかが必要になってきます。

弁護士の話が出てきたんですけど、弁護士もやっぱり学校に専門特化した弁護士さんを使うようにするとか、養護教員や7ページにあるスクールソーシャルワーカー、学校支援員などというところも、やっぱりスクールソーシャルワーカーさんが、大口は一人なんですけれども、本来各校に一人ずつ欲しいな、って思ったり私はしております。小学校には、支援員っていう会計年度の方が何人か多分いらっしゃるんですけど、中学校にはそれが無いので、例えば中学校にも支援員を置くとか。

大口中学校ができた時に、地域協働本部というまちづくり実行委員会を置きました。そこで色んなボランティア活動をしているので、そのあり方を見直したり、その活用を考えたりして、先生達の時間、本当に教員である時間だけを確保できるように、今後も持っていきたいということで、これができてるんじゃないかな、と私は考えてます。

○大野指導主事

今仰っていただいたんですけども、本来の業務は授業なので、やっぱりそこに時間をかけたいですし、そこから時間の削減をするっていうのは、先ほども言われたように、ストレスになると思います。

しかし、今まで当たり前のように学校がやるべきことということで、周りから見られたり、あるいは、当たり前のようにやってきていたことの中に、もしかすると学校じゃないところでやっていただいたほうがいいものがあるんじゃないかっていうことで、今、見直しをしています。

文部科学省からも、今日、追加資料であったんですけども、学校以外が担うべき業務とか、教師以外が積極的に参画すべき業務っていうものを、教員の仕事から少し動かすようなことを考えていながら、授業とか、生徒指導とか、そういう部分については時間をかけてもらいたいですし、かけなければいけない、と思うわけなんですけれども。

時間数だけで考えると、確かにこれはあくまで目標値であります。社会の教員に対する

見方というか、今までだったら部活動やって当然だった、登下校の見守りに入って当然だと思われていたものなんです、果たしてそのあたりを今後教員の仕事としていくことなのか、そうじゃないのかっていうことも、検討していきながら、本来の、授業づくりとか、生徒との対話とか、できるだけそういうものに時間をかけられるようにしていきたいなっていうのが、この計画の狙いと一番の部分だというところで、作っております。

○社本教育長

いいですか？

○鈴木町長

今の大野君の話で言うと、じゃあ、その、個々の生徒の個性っていうのをどこで判断するの？

学校で勉強教えてくれるときに先生が、例えばひとりの生徒の人間性や性格だとか色々なものをこう、どこで判断するかって言ったら、少なくとも、例えば、今の部活動や課外授業や、色々なもので判断をしていかなきゃわからないと思う。パッと見てその人間が悪い人間、いい人間とか、内面の人間性を見ることができないっていう中で、果たしてそれが教育っていう名の下に、教えるだけだったら、別に教員じゃなくても、今話題のAIや、コンピューターが教えりゃいいでしょう、っていう。

その人の人間性やその子の持っている性格で、色々なものを、引き出して、その子に合った勉強方法を教えていく、っていうのが、教員の仕事じゃないのかなって、俺は思うんだけど。

○鈴木教育長職務代理

いいですか？

今町長が言われたとおり、個性を大事にする、しっかりと対応して、その子たちを、どういうふうに育てていっていいか見極めるっていうことは、他の仕事、事務作業とかに追われていては、できないじゃないですか。

他の事務作業とか保護者対応とかに、時間やエネルギーが取られては、児童生徒と向き合う時間が少なくなってしまうということで、スクールサポーターや対応、地域社会と関わる活動など他の方でもできることは、そちらの人にそういう仕事をお任せして、先生本文の授業づくりだったりとか、子どもと関わる時間を持ちましょうということで、これが作られているんじゃないかなと思ってます。

○社本教育長

いいですか？

○鈴木町長

まったく反対のこと、言ってる。

逆に、やらなきゃいけない仕事と、その業務の中での、例えば、事務作業を、別の人がやってあげて、先生が主に一番大事なのは、さっき今言われるように、子どもと接する時間を持つことが一番必要なじゃないのかな。

○鈴木教育長職務代理

先ほど私言いました。

○鈴木町長

そうなんだけど、その時間をどこで持つのかっていう。

授業以外でやっている時に、それができるのか。

○社本教育長

いいですか？

○鈴木町長

どうぞ、はい。

○社本教育長

まず議事録は残していけばいいと思います。

ただ、第三者が見たときに、議事録なんで、言葉だけだと誤解を生じることがあるんで、その辺は適宜外せばいいけど、各委員は言ってみれば、本質のところ、こうざっくりばらんな意見交換なんで、載せていって、それは皆さんに知らせるべきだとまず思ってます。

次に、自分は教育委員会へ異動していく前から一貫して思っていたことは、今のところまだ変わってないんだけど、この見直しは、自治体が地域へ戻すんじゃなくて、保護者へ戻さなくてはいけないと思っている、ずっと。

今まで学校は一生懸命先生方がやってきたんだけど、それを保護者は当たり前にして、

どンドン先生、学校に求めてきた。地域の人も、教員に求めてきた。スマホの規制とかあれ教えろこれ教えろって、学校に求めてきたことが多くなりすぎて、持ちきれない。

先生方は一生懸命やってきたんだけど、先ほど大野指導主事が言ったように、個人的かもしれないけど、家族はその働き方を理解して、多分、夫なり妻を送り出して、やってきてるんだけど、結果、そこで負荷が生じ過ぎたりしてきたところを、じゃあ、一旦戻しましょう、と。

見直しましょうはいいんだけど、教育委員会としては、これをどう実行していくかってことを、本気で考えて計画を作らないと、計画を作っただけで、じゃあ誰かやってねとなってしまう。学校の子も達が早く帰るから、その当番は町でやって、見守りを地域でやって、どンドン地域や行政にやってって言うだけになる。

だから、町長は実践者なので、どう形にするかって、当然考えるわけですよ。僕達も考えなきゃいかん。

学校以外の見直すべき業務って、5つ書いてあるけど、これを実行しようと思ったら、どうするんですか？っていうことが多々あって、さっき水谷委員が言われた事務。

例えば、事務たくさん書いてあるけど、事務をだれが増やしてるんだっていうと保護者なり、県教委や文科省でしょ。でも自分たちの事務の軽減とは書かれていない。

目標はもってもいいんだけど、子ども達のために、本当にどうして行くのかってことを具体的にイメージしながらしないと。

さっき、スクールソーシャルワーカー、弁護士って言ってますけど成り手がいません。今、いじめの調査やってますけど、弁護士さんが言うには、もう弁護士誰も調査をやりたがりませんよっていう話です。悪者にしかならないよね結局。明らかに、教育委員会なり、学校に、瑕疵があるような事例はいいんだけど、大半のことは、保護者の意に沿う調査結果にならないんですよ。

そうすると、弁護士も結局恨まれるんですよ。だから、仮に、町長、執行部に、お金用意してもらっても、人がいないんですよ。議会とかでもあれ置けこれ置けって言われますけど、人がいない。なぜいないか。あまりにも責任が重すぎる。みんなですれをやれって言われて、やった結果、責任を負わされる。

なので、ちょっと関係ないこと言ってますけど、子ども達のために、僕達は、どうそれを具体化していくか、目標を置いてもいいけど、どうかしないと、先ほど、町長が言っているように授業以外の場でも見ないと、子どもの個性が見えないんじゃないのかって言ってるのは、多分、指導だと思う。子どもの指導のためには、部活だけじゃないけれど、部活も一つの有効な手段であったのは間違いない。そして、文部科学省なんて言っているか

という、それを、地域は、自治体は責任を持って、地域でやりなさいって書いてるのね。

先ほど町長の疑問は、部活がなくなった後、子どものことどこで見るとして疑問を多分持たれていると思ったんで、それはそうなんだけど、こう違いがあるんですよってことが戻れば、それも一つの方向なのかな、っていうことになるかもしれないけど、そういったことを、具体的に、自分はこう考えとていくことかなっていうところなので、先日の定例会議でも言ったんですけど、決めろって言われるなら、決めなきゃいけないんだけど、やっぱり僕達は小さな町で、小学校3つ、中学校1つなので、具体的にどうするかってことを、みんなで考えながら、進めていかないといけないかな、っていうふうに思っています。

教育委員会でこれをある程度まとめて、ここに持ってきて、教育委員っていう立場で意見を言うって、なんか、仕組み的に、一番難しいんじゃないかな、と、思っているんですけど、同じ人間なんで。本当は立場違うはずなんでね。って、私は思うんだけど、この場では、せっかくなので、本当にもう、思ってることを、みんなで意見交換しながら、そういう考え方とかもあるのか、そういう見方に対してこうですよ、っていう話をしていければいいのかなって思っています。

長くなってすみません。

よろしくをお願いします。

○鈴木町長

これって年に一回だけなの？

○大野指導主事

はい。

○鈴木町長

年に一回で正直なこと言って、今の話、まとめられるか？

○水野企画政策課長

一回じゃなくてもいいです。最低年一回。

○鈴木町長

だったらもう少し、具体的な話じゃないとでてこないと思うんだけど。

教員と地域と役所と教育委員会と、考え方としては、子どもをなんとかしなきゃ、っていうのはあるんだろうけどね。でも、その方法や色んなものが全部こう違ってきてるっていうのも、事実だと思うので、どこまで行っても、この話って終わらんとするんだわ。

やっぱある程度で切らないと。そして、それを大野指導主事たちが、もう一度、聞いた中で、キチッとまとめなきゃいけないということは一切言うつもりはありません。ただ、今日出た話の根本的なものはどこにあるかっていうのを一度出してほしい。もっと言うなら、極端なこと言うよ。男性の教育委員と、女性の教育委員じゃ、もう考え方が全く違うからね。家庭を見て、仕事を見て、分類から言ったら。そういう分類していいか悪いかは分からないけど、そういう色んな見方もあるので。

それと、この場にいる本当の教員って、大野指導主事一人だけじゃないか。我々には教員って本当のところは何を考えているのか分からないっていうのが事実だと思うんだよ。だから、もうちょっと掘り下げた形で、今回出てきた色んな話を、羅列する状態で集めてくれて、問題提起として出してくると、またちょっと掘り下げた問題が、出てきてくれるんじゃないのかなと思う。出すものを一度全部出さないと、形は整っていかないような気がするんだけど。

大野指導主事は教職員のことも役所のことも両方のことが分かる立場だから一番良くて、個人的な意見は求めないので、今回出た話がこんだけあったっていうのを書きだして、また次、時期を見て、問題定義をここでしてくれて、その時に必要な、じゃあ本当に教育委員だけでいいのか、もっと言うなら、行政側が俺一人だけいいのかってことだと思うんだよ。

あと誰だっけ。今の陸上の女の子。

○社本教育長

小東さん。

○鈴木町長

小東さんみたいな人を入れなきゃ、教えてる方の立場がどうなのかわからないじゃん。

部活動を代わりに、教えてくれる人たちの気持ちも、必要だろうし。それから、地域にふりなさいって言われるけど、やってる方はどうなのっていう感覚って、あるんじゃないかな。それをうちが出さないといかんのじゃないかなあと思うんだけど。

それを指導主事にやれって言っても、無理だと思うから、それは、課長の方である程度

選別して、二人で今日出た話をまとめて、それをまた次の題材にして、また話し合う。

この話し合いちょっと続けないと、今日この場で結論出せば、多分皆さん納得しないと思う。まず、俺も納得しない。

○社本教育長

計画、目標としては、先ほどお話したように、当面やれということなんで、議事録を作っていくんですけど、今町長が言われたし、特に打合せしたわけではなかったんだけど、その教育会議のあり方も、本当に色々な意見出して、子ども達のために、具体的にどうしていくかってことを考える場を作っていく必要があると、自分は思ってきたんで、そういう意味では、自分自身教育委員会で働いて今6年目なんですけど、教育委員会としての反省点は色々あるんですよ。

色々掲げるんだけど、ノープラン、具体的にこういうふうにしていくってところは、結局あまり持ってなかったんじゃないかなと、自分自身思っていたんで、こういう立場を頂いてるんで、一つずつ具体的にどうしてくだっというのをみんなで意見を交換する。

そのためには、色々な立場の違う人が集まる場を作って、意見を寄せる。非常に大変です。色々なことをみんな思い思いに言うから、大変なんですけど、それを踏まえていかないといけないっていうふうに思っています。

自分はずっと、保護者に対して、学校は言いにくいかもしれないけれど、教育委員会発信で、保護者の皆さん、こうなんですよ、っていうふうにお伝えをしていかないと、いつまでたっても、ただ言ってるだけで、最後は何となくやむやにして先延ばしにするのか、それとも教職員が間に挟まるのかっていうことなので、そういったことも、今後取り組んでいければなっていうふうに思っています。

座長は、町長なんですけど、先ほど、もうちょっと場をもったらって、言われました。時間はないかもしれないけれど、自分は持つといいかなっていうふうに思っています。

○鈴木町長

じゃあ、あえて、今日はこの場で打ち切ります。

今、出た話を、もうちょっと皆さんに膨らましてくれて、その時に、出た色々な人たち、今、教育長が言った、例えば、保護者でもいいし、何でもいいんだけど、そういう人たち、もしくは、見守りやってる人たちや、部活動教えてる人たちや、そういう色々な人たち、これと大野指導主事一人だといけないと思うので、学校の教員がどうなのっていう実態を分かっていないんだよ。

女性の委員さんは二人とも、学校教育に関わった方たちと、一緒に生活してみえるから聞いてみえるけど、俺、全く分かんない。

部長はわかるのか？

○松井生涯教育部長

いや、分かんないです。現場のことはわかりません。

○鈴木町長

岩田課長は？

○岩田学校教育課長

分かりません。

○鈴木町長

まったく学校に縁のなかった丹羽委員は。

○丹羽委員

話は変わるかもしれないですけど、同業の女性に後継ぎで婿にきたのが学校の先生で、給料はだいぶ安くなったんだけど、やっぱり時間すごく取れるようになって、教師をやめてこっちへ来たって言った時に、やっぱり、教師はすごく時間を取られる仕事なんだなっていうのは思って、こういうのができたのはそういうことなのかなって。

○鈴木町長

だから、その実態そのものが、分からんのだよな、俺たちって。

だから、分からん者がここで座長やっていいのかと思っちゃうんだけど。やっぱり、それぞれの思いってのはあると思うんで、結論は、結論でいいでしょう。あくまで目標であって。

ただ、この町にあった教育方針っていうのを決める上においては、やっぱり、地域の色々な人たちにもうちよっと入ってもらって、ご意見を聞く場を作ってみるのも、一手あるんじゃないのかと。

そういうのを聞いて、また先生方の意見も聞いて、極端なこと言えば、先生だけ来ても

らって、先生たちが思っていることを好きなように言ってもらえる場でもいいと思うし、そういうのも必要かもしれない。というのを、町の方で一回検討して、もうちょっと、意見が出るようにしてもらってことを期待をして、今日はこの会議を締めさせていただきます。よろしいでしょうか。

あと発言したい人がいたら、ご意見ある方、いたら、どうぞ。

○社本教育長

さっき町長言われてたんですけど「これはこれで目標でいいよ」ってことを、座長に言って頂ければ、まずは目標として。

ただ、うちの町としては、具体的に、いろいろな関わる人達との意見の場を持ちたいというのが、座長としての意向だというふうに、受け止めさせてもらったんで、そういう意味では、先ほどお話しした時間をどうもつかということもあるんだけど、色んな人の思いの意見に耳を傾けながら、かと言っても、全部がすぐできるわけじゃないっていうことを踏まえて、場を持てるように調整をさせて頂くということであればいいかなと思います。

そういうことをやろうと思うと、波が立つと思うんです。だけど、子ども達のためには、それが必要だし、それが結果、教員の方々の、働き方の見直し。さっき、大野先生、言われたし、あとは、水谷委員さんは、町長に聞かれて困ったかもしれないけど、働いている教員の人達って、時間数が負荷になる人もいるんだけど、やっぱり、働きがい、仕事をどうやっていくかっていう、限度はあるけどね。先ほど、大野先生が言われたように、時間で切ってしまうと、働きがいを奪ってしまうことにもなってしまいます。

うちは、保育士見てたんだけど、保育時間長く預かってくれて、行政言われるわけですよ。で、働く時間、すごく長くなって、家に持って帰るもんね。でも、こうやって、製作やってあげたいって、思うと、隠れて家で仕事するような世の中って、どうなのよって思います。

○鈴木町長

と言いながら、東京の方の役所に行って見てたら、12時や1時でも電気煌々とつけて仕事やっている。こういう現状なんだよな。だから、それをうちだけに押し付けてきてっていうのは、これ、おかしいんじゃないかなっていうのは思っています。

今話を止めてしまったけれど、今日ここでいろいろなこと喋っても、仕方ないと思うん

で、今日出た話、全員揃えてやる必要はないと思うんで、来れる人は来てもらって、話を聞いて、また、意見として、話をしてけばいいんじゃないのかな、って思うんですけど。そんな形で、目指してもらって。よろしいでしょうか？

結論はでないよね。なので、そういう話にさせていただきます。

ではこれで議事の進行は終わらせていただきます。

○水野企画政策課長

はい、ありがとうございました。

今日いただきましたご意見とか、頂戴しました宿題のほうはまた整理させていただいて、また、こういう形でというふうで御示して、こういった場ですとか、他の方も参加する場を用意できたらと思います。

5. その他

○水野企画政策課長

他何かございましょうか？

6. 閉会

○水野企画政策課長

では、長時間にはなりましたけれども、以上もちまして、令和7年度総合教育会議を閉会とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

(午前 11時00分)